

四国放送

活動名	四国放送アナウンサーお話し会「言葉っておもしろいゾウ9」
実施期間	令和5年9月～令和5年11月
実施回数	会場6回

【事業実施の成果・課題】

2020年からのコロナ禍から、2023年5月8日、感染症法上の位置づけが、「5類」に移行。学校側の意向について、

6月から始まった打ち合わせの際、確認したところ、6校ともに通常開催で問題なしとのこと。もちろん換気等に感染症対策については配慮をしてほしい旨をお伝えした。絵本の読み聞かせの際にアナウンサーは「マスクなし」で実施した。2人のアナウンサーが1冊の絵本を読むことで、ストーリーが伝わりやすく、お芝居に近い感じで伝わったのではないかと思う。子どもたちにとって1人の読み手にはない分かりやすさを感じてもらえたと感じる。

また事前打ち合わせの際に、コロナ禍でマスクを着けての生活を送っていた生徒たちの様子を見ていたご担当の先生から「口を開けてしっかり声を出すことを教えてほしい」とご要望をいただいた。絵本の読み聞かせの合間に実施した「早口言葉」で遊ぶ時間に、口の開け方、声の出し方、声を出すことの爽快感、そして言葉、つまり「自分の考え」をはっきりと伝えることの大切さをお伝えできたのではないかと感じている。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<福井和美アナウンサー（3回：八万／川内北／内町）>

子どもたちの顔を見て直接反応が返ってくるのが励みになります。「読み」の技術でどこまで子どもたちを集中させることができるか、毎回、真剣勝負のつもりで学校に伺っています！（笑）

<島川未有アナウンサー（1回：沖洲）>

数年ぶりに担当させていただきました。それぞれのキャラクターのセリフとあらすじ部分の声のトーンやテンポを変えることを意識しました。早口言葉の際の子どもたちの反応について低学年の子どもたちは反応が良く、逆に収集がつかないくらいヒートアップしそうになって少し慌てましたが、一緒にみんな体を動かしたり声を出す時間はメリハリがついて、読み聞かせの合間の時間に良いと思いました。絵本の読み聞かせを通して、子どもたちの反応にふれてみて、テレビ離れが進んでいる今、子どもたちに地元の放送局や番組に興味を持ってもらうきっかけになれば、とも思いました。

<野口七海アナウンサー（2回：不動／加茂名）>

今年は2校、伺いました。子どもたちも真剣な眼差しで読み聞かせを聴いてくれて、落語絵本では、笑いがおきるなど反応があったので嬉しかったです。これからも続けたい大切なお仕事です。加茂名小学校では生徒2人がニュースキャスターにチャレンジしたり、アナウンサーの仕事への質問時間もあり、職業自体にも興味を持ってもらえるきっかけになりました。仕事に関するお話をする機会があってもいいなと感じました。

<豊成春子アナウンサー（2回：八万／内町）>

一緒に読み聞かせをした福井アナウンサーが、落語絵本を読む前に、子どもたちにとって難しい言葉や分かりにくい言葉の説明をしていました。ただ読むだけではなく、絵本をもっと楽しんでもらうために、大切な心遣いだと、勉強になりました。早口言葉はゲーム性もあり、楽しんでくれたように感じました。絵本と絵本の間の、いいブレイクタイムになったと思います。

<石井隆智アナウンサー（1回：加茂名）>

普段、多くの子どもたちと触れ合うことはあまりないので、生の声を聞くことができ嬉しかったです。加茂名小学校に行きましたが、正しい読み方クイズ、生徒2人によるニュースキャスター体験などもあり盛り沢山の内容で、私たちも楽しみながらできました。アツという間で体感時間30分でした。

担当の先生が気を利かしてくださり、最初に自己紹介がてら一発芸（特技：サッカーのリフティング）をする流れに持って行ってくださいました。私自身、2回目の読み聞かせでしたが、前回同様、落語絵本が一番盛り上がりました。気持ちを込めやすい落語で読みやすかったのですが、その後の「ぼくはなきました」は、考えさせられるタイプの絵本で、読みが単調になってしまいました。読みの技術を磨いていきます。

<緒方ゆいアナウンサー（2回：不動／沖洲）>

不動小学校では図書館で行いましたが、体育館よりもアットホームに感じました。マイクを使わずに読み聞かせをした分、より伝える読みができたと感じましたし、生徒の皆さんの表情を見ながら読めました。少人数の学校では、図書館で実施するのもいいなと感じました。小学1年生に、「じゅげむ」は伝わるのか心配でしたが、意外と真剣に聞いてくれていたので安心しました。絵本と絵本の合間に実施した早口言葉遊びは盛り上がりました。クラス対抗早口言葉など、もっとゲーム感覚をもって遊んでみてほしいと思います。

<外谷光アナウンサー（1回：川内北）>

読み聞かせを通して最もうれしかったのは、「アナウンサーになりたい」とお手紙を受け取ったことです。私たちの読み聞かせを聞いてくれたみんなから感謝の手紙を貰っただけでもありがたいことなのに、さらに自分のしている仕事にあこがれを持ってくれたことは、よかったなと思いました。テレビを見たりラジオを聴いたりする人が減る中で、こういった事業が、将来テレビ局で働きたいという人を増やすことにつながると実感しました。先輩の福井アナ主体で楽しく盛り上がるように構成してくれて、その雰囲気によって読んでいる私も楽しかったです。

<担当者の感想>

図書室、多目的室、体育館に集まってくる子どもたちのワクワク感を感じ、子どもたちの表情、反応などを見てこちらの方が感動をいただきました。アナウンサーも読み方を工夫したり、練習を積んで臨んでいたのも、普段とは違った、良い意味での緊張感があり、『読む（表現する）技術』を発揮する場になったと感じております。少し難解かも…と思っていた絵本について、子どもたちは私が想像するよりも、もっとちゃんと絵本のメッセージをとらえて、自分に投影していたこともあり、驚きました。後日、子どもたちから『お礼のメッセージ』が届きました。良い思い出とともに、次年度以降の励みになりました。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

<先生方の感想>

- ・「いつもと違ってアナウンサーのお二人が掛け合いをするように読んでくださったので、私も含め皆が絵本の世界に引き込まれ夢中になって聞き入ってしまうほどでした。口をしっかりと動かして発声することの大切さや、(アナウンサー自身の小さな頃の) 将来の夢の話なども子どもたちに響いているようでした。読書の楽しさを再認識できる良い機会を与えていただき本当にありがとうございました」
- ・読み方が違うとこんなにも内容の入りやすさが違うのかと大変勉強になりました。読み聞かせが終わった後も何度も話題にあがっていました。発声の仕方についても子どもたちは良く意識をして声を出すようになり、大きな声が響いてクラスが明るい雰囲気になることが増えました。
- ・アナウンサーのお仕事のやりがい、楽しさなどもいろんな角度からお話していただき子どもたちにとって実り多い時間となりました。
- ・読み聞かせの後、子どもたちは、「今日絶対ゴジカル見る！」と喜んでいました。普段会えない方と会えてとても心に残ったようです。

<子どもたちの感想>

- ・すてきな本をよんでくれてありがとう。2人のこえがすごくきれいでした。ゴジカル！、フォーカス 徳島 みます！（下線部は番組名）
- ・わたしが一番好きだったのは「ええことするのはええもんや」です。わたしもいろいろな人にお手つだいをしたことがあるので、これからもいろいろな人にお手つだいをしたいと思います。
- ・二人が交代で読んでいたので聞いていて、わかりやすかったです。また読みに来てください。
- ・将来の夢としてアナウンサーもいいなと思いました！
- ・『うどんのうーやん』は、うどんが生き物みたいに動いていておもしろかったです。
- ・ふたりが（役に）なりきって読めていたのが良かったです。私もなりきって読みたいです。
- ・発声練習が楽しかったです！
- ・「早口ことば」が、おもしろかったです／むずかしかったので、練習します！